

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

-----  
共同利用・共同研究課題「公刊資料に基づく中国・河西回廊地域モンゴル諸語の研究」  
平成 27 年度第 2 回研究会 報告

日時：平成 27 年 10 月 4 日（土曜日）午前 10 時 30 分より午後 6 時 30 分

場所：AA 研 301 号室

報告者名（所属）・報告タイトル

1. 児倉徳和（AA 研所員） 『『蒙古語族語言方言研究叢書』データベース化の進捗について』
2. ホリロ（AA 研共同研究員，東京外国語大学） 『『蒙古語族語言方言研究叢書』の音韻の記述について』
3. 今後のプロジェクト活動に関する相談・討論

-----  
今回の研究会は、前回（第 1 回）研究会での話し合いを踏まえ、比較的データベース化が進んでおり、かつデータベース化の早期の進展が見込める語彙データを用いての議論を行うべく、音韻の記述にテーマを設定した。

1. 児倉徳和（AA 研所員） 『『蒙古語族語言方言研究叢書』データベース化の進捗について』

『蒙古語族語言方言研究叢書』のデータ（テキスト・語彙集、および文法書の和訳テキスト）のデータ入力状況、および策定中のデータベースの形式、およびメンバー間でのデータの共有方法について報告した。

2. ホリロ（AA 研共同研究員，東京外国語大学） 『『蒙古語族語言方言研究叢書』の音韻の記述について』

『蒙古語族語言方言研究叢書』で扱われている言語のうち、本研究課題で対象とする保安語・土族語・東郷語・東部裕固語・ダグール語について音韻上の特徴（音節頭の子音連

続の有無、母音の長短の対立の有無、母音調和の有無、語頭の **h** の保持など)、各言語の音対応、漢語要素の音韻的特徴（借用元の言語の音のまま取り入られているか、当該言語の音韻体系に応じた音変化を伴うか）について報告した。

報告に対しては、角道正佳氏による先行研究も踏まえつつ、言語接触による周辺言語の影響とみるべき特徴であるか否か、という点を中心に議論が行われた。